



KUMAMOTO

# YMCA NEWS

THE KUMAMOTO  
YOUNG MEN'S  
CHRISTIAN  
ASSOCIATION

No.534

2016

# 12

## 高校生の時に会った聖書

「九州学院高等学校に入学した年の春、私は聖書と出会いました」と、日本福音ルーテル大江教会牧師の立野泰博さん。高校の礼拝で聖書を読み、「本当のこと」が書いてあると感じたそうです。日曜には教会の礼拝に参加するようになり、高校2年生の復活祭の時、洗礼を受けました。「教会にはアメリカ人の女性教師がいて、アメリカ文化を教えてくれたり、キャンプに連れて行ってくれたり…。憧れの文化を知る喜びも大きかったです」。その頃からリーダーシップを発揮していた立野さん。同級生たちを教会に誘ううち、30人ほどが洗礼を受けました。



大江教会の  
玄関には24時間、  
鍵はかけません

日本福音ルーテル大江教会牧師 熊本YMCA常議員 立野 泰博さん  
熊本ジェーンズワイズメンズクラブ

## 信仰の気持ちと学問の違いに悩んだ 神学校時代

高校2年の学年末に大きな転機が訪れました。東京のルーテル学院大学の学長が高校を訪ねてきて、「私たちの大学に来て、牧師になりなさい」と誘われたのです。立野さんは「何だか分からないうちに決めちゃった」と笑います。

しかし、ほどなくして大きな壁にぶつかります。神学校ではラテン語やドイツ語、ギリシャ語などを修める必要があり、徹夜を続けて勉強するなど、大変な苦勞でした。「1年で燃え尽き、2年の5月から逃げ出しました。アルバイトしてオートバイを買って、日本中を放浪しました。3年間ほどは学校に行ったり行かなかったり」。高校時代の素直な信仰の気持ちと、学問として学ぶということの違いに悩み、聖書に対し、反発さえ覚えたと言います。

4年生の時に、ついに退学を決意。「お世話になった牧師へ挨拶に出向いた時、牧師は『皆は君を忘れると思うけれど、キリストは君のことを最後まで諦めないと思うよ』とおっしゃったんです。その一言が、私を変えました。吹っ切れて、それからは迷うことなく歩むことができました」。

「自分の居場所」と思ってもらえる教会でありたい

## 宗教を超えて祈りを捧げた東日本大震災

卒業後1年間は100名以上が集う新宿の教会の副牧師に。しかし、2年目から赴任した徳山では、最初の礼拝に教会を訪れたのは1人だけでした。「自分で考え、教会に来る人を増やすしかない」と心に決めます。教会をフラワーアレンジメントやステンドグラスなどサークル活動の場として地域に開いたところ、10年後、礼拝に来る人は150人になっていました。

その後、広島を経て、東京で全国の日本福音ルーテル教会を統括する事務局を務めていた時に発生したのが東日本大震災でした。「教会から派遣されて宮城県の石巻に行き、地元の社会福祉協議会からボランティアセンターの受付を任せ1年半ほど住み込んで活動しました」と立野さん。震災後、亡くなった方の宗教がわからない時には、火葬場で僧侶、神主、牧師等が順番に祈りを捧げたそうです。「そこで、“宣教に関しては違いがあるけれども苦しみ寄り添い祈るということでは一致できる”と気づき、一緒に地域を行脚しました」。他の宗教者と共に仮設住宅を回るうち、宗教を問わず現場で傾聴することが大切だと感じたと言います。



東日本大震災をきっかけに始まった僧侶と牧師の傾聴カフェ「カフェ・デ・モンク」。熊本でも臨床宗教師が被災者の声に耳を傾けた

## 「コミュニティの再生」が熊本YMCAの役割

2012年6月、日本福音ルーテル大江教会に赴任。牧師として30年ぶりに故郷の熊本に戻り、母校の九州学院高校では聖書科を教えています。2013年度には熊本YMCAの常議員に選出されました。

立野さんが牧師を務める大江教会とはどのようなところなのでしょう。熊本地震での教会の働きについて尋ねました。「地震直後から乳幼児がいる家族の支援に特化し、ミルクやオムツなどを集めました」。物資を求めてきたお母さんたちに困っていることを聞いて、その対応に奔走。教会は、お母さんたちがコーヒーを飲みながら語り合い、ホッとしてもらうスペースにもなったそうです。「教会の玄関には24時間、鍵はかけません。地震の前も後もこれは同じ。いつでも訪ねることができ、人とつながり、心の支えとなる場所であってほしいからです。“自分の居場所がある”ということはとても大切です」。

地域社会を分断する大規模災害。熊本YMCAの一員として、これからの震災復興支援への思いをうかがいました。「避難所が閉鎖された今、熊本YMCAの支援活動の拠点は仮設住宅へ移行しています。『コミュニティの再生』こそ、YMCAが得意とする分野であり、人々の癒しになっていくのではないのでしょうか」。



南阿蘇立野地区から阿蘇大橋へ続く道の終わりで牧師、僧侶、神主が祈りを合わせた

## Pickup

水前寺幼稚園  
わいわい秋まつり



YMCA学院の  
学生も活躍!  
中央YMCA前進祭

国際色豊かな  
東部YMCA  
帯山まつり



# Information 行こう 見よう 深めよう

## 市民クリスマス2016

### アンサンブルチャリティコンサート

クリスマス  
×  
チャリティ

クラリネット奏者の柳瀬洋さんらを招いて市民クリスマスコンサートを開催いたします。益金は熊本地震復興支援活動などのために用いられます。

日 2016年12月13日(火) 18:30開場 19:00開演

場 九州ルーテル学院大学チャペル

出演者 柳瀬洋さん・工藤美穂さん・柳瀬佐和子さん

費 大人 1,500円 学生 1,000円 全席自由

チケット取り扱い 熊本YMCA各施設 熊本YWCA

主催 市民クリスマス2016実行委員会

問 市民クリスマス2016事務局

熊本YMCA(熊本市中央区新町) TEL 096-353-6397



## 楽しみながら社会貢献

### YMCAチャリティプログラム

楽しむ  
×  
チャリティ

今年度も、各YMCAでチャリティプログラムを開催します。益金は、国際協力青少年育成年末募金に充てられます。

#### 中央YMCA チャリティプログラム2017

日 2017年1月15日(日)

10:00~13:00(予定)

場 中央YMCA(熊本市中央区新町)

因 スポーツでチャリティー、プチバザー

問 TEL 096-353-6391

#### みなみYMCA チャリティフェスタ2017

日 2017年1月22日(日)

10:00~15:30(予定)

場 みなみYMCA(熊本市南区田迎)

因 スポーツ体験、クラフト、ミニバザー等を予定

問 TEL 096-378-9370

#### ながみねファミリーYMCA チャリティプログラム2017

日 2017年1月14日(土)~20日(金)

※15日(日)は除く

場 ながみねファミリーYMCA(熊本市東区長嶺南)

因 食バザー 1月14日(土)のみ 10:00~14:00 / ガレージセール・くじびき 1月14日(土)~20日(金) 10:00~/ ストラックアウト 1月14日(土)~20日(金) 平日:15:00~ 14日:終日 ※20日は15:30で終了

問 TEL 096-385-0676

#### むさしYMCA チャリティプログラム2017

日 2017年1月22日(日)

10:00~15:30

場 むさしYMCA(合志市幾久富)

因 プール開放、親子サッカー、親子マラソン、のみの市 他

問 TEL 096-248-6334

## 片柳弘史講演会

### &こいずみゆりミニコンサート

地震  
×  
講演

発災以降、何度も熊本を訪れ、支援活動に尽力されたカトリック宇部教会神父の片柳弘史さんが、キリストの愛についてお話しください。今回のテーマは、マザー・テレサに学ぶ愛の実践。著書『あなたのままで輝いて~マザー・テレサが教えてくれたこと』の中から「痛みを感じるまで愛しなさい」「愛したいなら、ゆるすことを学びましょう」「自分と和解することから、相手との和解が始まります」など、シンプルで心に響くマザー・テレサの言葉が紹介されます。また、こいずみゆりさんのミニコンサートも行われます。

日 2016年12月23日(金・祝) 14:30~16:00

場 益城町交流情報センター ミナテラス(益城町総合運動公園内)

費 無料 問 熊本YMCA 本部事務局 TEL 096-353-6397



片柳弘史さん

カトリック宇部教会神父 1971年埼玉県生まれ。慶應義塾大学卒業後、カルカットでボランティア活動を行い、マザー・テレサから神父になるよう勧められる。現在は山口県宇部市で教会の神父、幼稚園の園長補佐、刑務所の教諭を務める。

こいずみゆりさん

神戸市生まれ。代表作:「虹」(映画「わすれないうつくしま」エンディング・テーマ曲)「Man for others ~仕えるために~」



## 熊本バンド結盟141周年早天祈祷会 ボランティアデー

キリスト教  
×  
ボランティア

日本におけるキリスト教プロテスタントの源流の一つとなった熊本バンドの141周年を記念して早天祈祷会・ボランティアデーを開催します。

### 早天祈祷会

日 2017年1月30日(月)6:30~7:30

場 花岡山山頂 熊本バンド奉教之碑前

要 内村公春さん(学校法人九州ルーテル学院長・社会福祉法人慈愛園理事長)

### ボランティアデー

日 2017年1月28日(土)9:30~11:00 ※雨天中止

場 花岡山山頂周辺

因 清掃活動・ぜんざい会 ※各自で軍手・箸・お椀をお持ちください。

問 熊本バンド記念行事実行委員会事務局

熊本YMCA TEL096-353-6397



## R | E | P | O | R | T

## 熊本地震 益城町総合体育館・御船町スポーツセンター避難所が閉所

熊本YMCAが指定管理者として運営する益城町総合体育館と管理運営共同企業体の代表として運営する御船町スポーツセンター。熊本地震発生後、ピーク時には合わせて1,800名もの人々が身を寄せた両施設が、10月末に避難所としての役割を終えました。閉所日には職員と固い握手を交わす避難者の姿も見られました。

閉所に伴い、スポーツセンターでは11月5日(土)に「スポセン秋祭り」を開催。これまでに活動したボラン

ティアへの感謝の気持ちを表すこと、被災者や地域の皆さんとの親睦を深めることを目的に実施されました。総勢300名ほどが食バザー、ゲームコーナー、抽選会を楽しみ、懐かしい顔ぶれに、会話が弾んでいる様子でした。

今後、熊本YMCAは益城町の木山仮設団地と御船町の木倉地区の地域支え合いセンターの運営、阿蘇YMCAを拠点とした地域の復興支援、子どもたちの心のケアプログラムなどの活動を展開していきます。



閉所当日の益城町総合体育館アリーナ

## 企業の災害対応と地域の復興 防災シンポジウム開催

10月21日(金)、YMCAフィランソロピー協会の年次総会にあわせ防災シンポジウムが開催されました。熊本地震の支援に携わった3名が「熊本地震から考える企業の災害対応と地域の復興」をテーマに、それぞれの取り組みについて報告。

益城町で避難所の運営に携わったYMCAの秋寄光輝さんは、支援のあり方について「与える支援から共に行う支援が変わっていく。共に行うことで、新しい生活への自信につながる」と話し、発災後からおにぎり

の提供を続けた会員企業の亀井ランチ代表取締役の亀井明徳さんは、「従業員が家族を含め、不眠不休で協力してくれたことで対応できた」と説明。また、熊本県ボランティアセンター所長の桂誠一さんは「住民間の助け合いから全国的な支援まで、ボランティアの形も様々。大切なのは被災者へ寄り添う気持ちだ」と述べました。

参加者は地震発生からこれまでを振り返り、企業の視点で熊本の復興について考えました。



## 熊本地震を乗り越えて ジェーンズワイズメンズクラブ30周年

「時代を拓け、ジェーンズ魂!」を主題に掲げ、11月12日(土)に熊本ジェーンズワイズメンズクラブ創立30周年記念例会を開きました。当日は、ワイズメンやその家族、韓国釜山の友人たち及びYMCAの役員や職員など総勢164名にご参加いただきました。

この例会のねらいは、熊本地震の被害を乗り越えて進む熊本のワイズと熊本YMCAの姿を形にしたいというもの。3名の新入会員を迎えて入会式を行い、熊本地震におけるYMCAの働きを報告してもらい、当ク

ラブから熊本YMCAに震災復興募金と職員のアメリカ研修派遣費用の贈呈を行いました。

その後、熊本YMCAとも浅からぬ縁のあるニューオーリンズ・ジャズハウズによるジャズ演奏とともに和気あいあいとした懇親会を行い、またジェーンズ・Tobeバンドによる演奏の中で交流し、さらなる友情を育みました。

熊本ジェーンズワイズメンズクラブ 30代会長 田中俊夫



## 「おたがいさま」

当たり前と思っている暮らしができることへの感謝を今年ほど感じることはなかったように思います。自然災害は突然訪れ、一瞬のうちに多くの人々を恐怖と悲しみの中に巻き込みます。4月に起きた熊本地震は人々の心の奥深いところに多くの傷を残しました。

災害だけではなく、残虐な事件や人為的な事故のニュースを見聞きするたびに、「私たちの生きている社会は、本当に豊かなのだろう

か」と考えさせられます。人々が安心して暮らすことができる地域や環境をつくり出していくことの大切さを実感します。子どもたちも、子育て中の皆さんも、障がいのある人も、高齢者になっても、その地域で安心して生活できるコミュニティづくりが求められています。

人と人との絆、そこには「おたがいさま」の精神がなくてはなりません。私たち一人ひとり、とても弱い存在です。隣人の助けを借りたり、他者に依存せずには生きていくことはできません。親であったり、家族であったり、友人、近隣で暮らす人、様々な人とのつながりを保ちながら、ようやく生きていくことができます。

マザーテレサの有名な言葉の一つに「愛の反対は無関心」という言葉があります。人との関わり、交流の中に「愛」を持ってお互いが接し合うこと、お互いが関心を持つこと。そのこと

が当たり前に行われることを願います。誰もが人との関わりの中で、役割を担い、頼りにされる機会があること、互いを認め、高め合う姿勢が、楽しく豊かな社会をつくり出す、一歩ではないかと思えます。

熊本YMCAは益城町の木山、御船町の木倉地区の仮設住宅の「地域支え合いセンター」の運営を担うこととなりました。仮設住宅のコミュニティの中で、人々の尊厳が保たれるような関わりを目指していきます。

震災の経験や、多くの関係性を活かして、熊本地震からの復興支援に寄与し、希望に満ちた未来を創造すること、YMCA運動を深化すること、次世代を担う人財を育成することを掲げ、仮設住宅に限らない「地域支え合い運動」を2017年度からの3カ年の目標として進めていきたいと思えます。

t a l a n t o n

